

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

世界に光をもたらす日本の精神 横田南嶺（臨済宗円覚寺派管長）22

- なかなか厳しい現実ではございますが、ここから立ち上がっていくためにも、私たちが失ってはならない日本のよさというのがあると思います。それは、儒教や仏教、禅の教えを、日本独自に融合させた日本精神という言うべきものです。日本人というのはそんなふうにも、異なる思想、異なる宗教を融合させて学ぶ力を持っていたと思います。
- 世界は異なる宗教、あるいは同じ宗教の中でも考えが違ふ者同士が戦争を起こしております。ところが日本では、元々神道が根づいておったところに仏教が入ってきても、奈良時代にお互いに排斥することはせず上手に融和しました。しかもおどろくべきことに、神社とお寺は一つになって、二つの異なる思想のものを同じようにお祀（まつ）りしてまいりました。
- 異なるものを融和させ、日本独自のものとしてつくり上げていく。平たい言葉で言えば「和」ということになりませんが、この日本の精神というのは、いまの戦争が止まない時代に素晴らしい光をもたらすと思います。森信三先生が「2050年、列強は日本の底力を認めざるを得なくなる」とおっしゃったのは、まさにそこではないかと思えますし、日本が一番取り戻すべきものであらうと思えます。（参考：「致知」2025年2月号）

人事労務について

トップダウンの経営には限界がある

- 30代は若手のエース、チームリーダー、幹部候補生などとされ企業の次世代を担う。だが、独自調査で67%が「30代不足」と回答。全国的に転職率も上がっている。30代を引き留め、外部からも引き込み、キャリアを輝かせる取り組みが不可欠だ。
- 九州電力は社員のチャレンジ精神を引き出す仕組みを整え始めた。新たな取り組みに30代社員が多く参加し、会社を変え始めている。九州電力は23年度から、全社的な組織変革の取り組み「Qden Transformation (QX)」という思想(WILL)と会社の方向性を対話により擦り合わせ、社員の主体的な挑戦を企業成長の力としていく。電力自由化などで業界の環境は激変している。トップダウンの経営で生まれるものには限界がある。社員の発想や熱量が今まで以上に重要になった。

(参考：日経ビジネス「2024年11月25日号」)

経営者のための危機管理

「日本一の高さ」の称号を求めた代償

- 「とどのつまりは初動ミス。最初の段階でしっかり検証して、人材も投入して対応していれば、ここまで損失が大きくなることはなかった」。準大手ゼネコン、三井住友建設のIR担当者はそう口にして肩を落とした。三井住友建設は2024年11月12日、現在施工中の国内大型建築工事で131億円の工事損失を計上すると公表した。それに伴い2024年度の最終損益は80億円の赤字になる見通しだ。
- 損失を計上した施工中の工事とは、タワーマンション「麻布台ヒルズレジデンスB」のことだ。「三井住友建設は『身の丈』を超えた工事を請け負った」。複数のゼネコン関係者は指摘する。そもそも麻布台ヒルズプロジェクトは清水建設の受注が自然な流れだったが、清水が断ったため、そこに飛びついたので三井住友建設だった。『日本一の高さ』という称号が欲しかったため、会長・社長案件として検討不足のまま進められた。

(参考：「週刊東洋経済」2024年12月21日号)

古典に学ぶ

「でも・」といわない姿勢が、あなたを前に進める

- 神仏を信じる心を「信心」といいますが、空海はこれを「仏を堅く信じて、絶対に後戻りしないと願って起こす心」と定義しています。
- この言葉を日常に落とし込んで、わかりやすく言い換えるなら、「でも・」と考へない姿勢だといえるでしょう。この姿勢は、人生を進んでいく時にも大切です。参考：名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」：河出書房新社